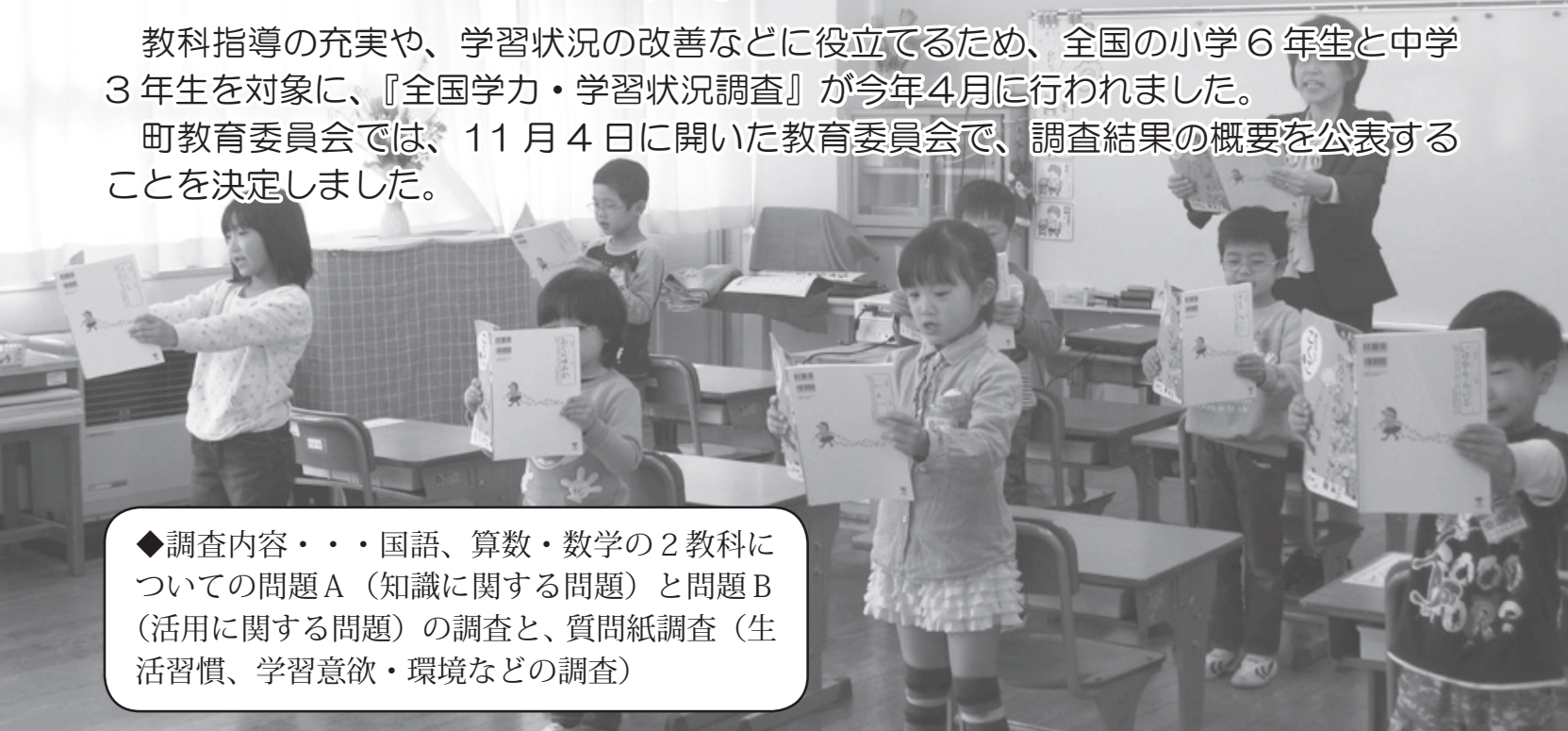


全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

教科指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、『全国学力・学習状況調査』が今年4月に行われました。

町教育委員会では、11月4日に開いた教育委員会で、調査結果の概要を公表することを決定しました。

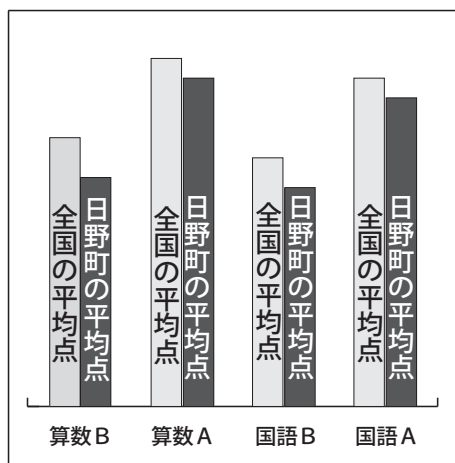


◆調査内容・・・国語、算数・数学の2教科についての問題A（知識に関する問題）と問題B（活用に関する問題）の調査と、質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）

小学校では

▼学力の伸びはあるものの、全国平均をやや下回る

国語、算数とも全国の平均正答率よりやや低い結果になっています。



全国平均より高い結果となったものは、国語では、「漢字を正しく読む（81・3割）」「質問の意図をとらえる（68・8割）」などです。算数では、「繰り上がりのある加法（100割）」「空位のある整数の乗法（93・8割）」「公倍数に着目した問題（65・6割）」などがあります。低い結果となったものは、国語では、「話し合いの観点に基づいて情報を関連付ける（43・8割）」「整理し関連付け、まとめて書く（6・3割）」「詩を比べて読み考えを書く（21・9割）」などです。算数では、「分数の理解（46・9割）」「条件に合う時間を求める（21・9割）」「量の大小を判断し、理由を記述（18・8割）」

などがあります。

全体的に見れば、正答率が全国平均より高い問題数よりも低い問題数が多く、また、個人差も大きいという結果になっています。

▼今後は「活用する力」「説明する力」の育成を

国語、算数に関する質問紙調査から、肯定的な回答が全国の割合よりも大きい項目としては、「国語の勉強は好き」「国語、算数の授業内容はよく分かる」「解き方や考え方が分かるようにノートに書いてある」ことなどがあげられます。逆に、小さい項目として、「自分の考えを話したり書いたりしている」「うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」ことなどがあげられます。

今後、一人一人のつまずきを分析



朝読書を行い、活用・説明する力の育成を図る

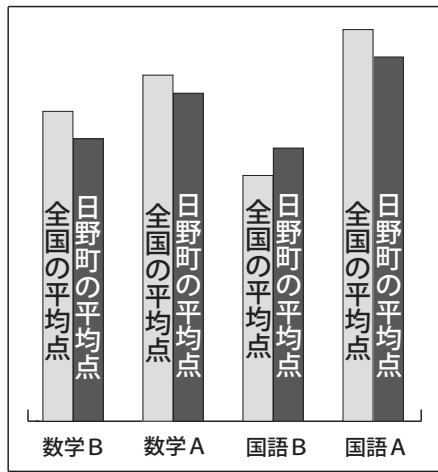
して、より個に応じた指導を行い、基礎的な内容を確実に習得させる必要があります。

また、「文章を読み取り、情報を取捨選択、活用する力」や、「自分の考えを持ち、それを説明する力」などを身に付けさせることが必要です。そのためにも、読書活動の一層の推進が求められます。

中学校では

▼国語は全国平均並み、数学は全国平均より低い結果に

国語Bは全国平均正答率より高い結果になっていますが、国語A、数学A、Bについては、やや低い結果になっています。



国語全体としては、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率は高いですが、「言語文化・国語の特質」については、課題が残るといえます。

正答率が高い問題は、「語句の意味を理解して正しく使う」(90・

5割)、「抽象的な概念を表す語句が示すものの理解(85・7割)」「必要な情報を読み取る(71・4割)」「自分の考えを持つ(71・4割)」などがあります。一方、正答率が低いものは、「辞書を活用して語句の意味を適切に書く(33・3割)」「表現の技法について理解する(42・9割)」などがあります。

数学では、「数と式」の領域で全国平均を上回っていますが、「図形」はやや下回っています。

正答率が高い問題は、「大小関係を不等式に表す(71・4割)」「一次関数について値とグラフの特徴を関連付けて理解する(85・7割)」「樹形図を利用して情報を分類整理する(85・7割)」などがあります。低いものは、「確率の意味の理解(57・1割)」「回転移動した図形について、辺や角の対応を読み取る(23・8割)」「関数の意味の理解(23・8割)」「図形の性質を構想を立てて証明する(9・5割)」などがあります。

▼授業の一層の充実を図り、「活用する力」「説明する力」の育成を

国語、数学に関する質問紙調査から、肯定的な回答が全国の割合よりも大きい項目としては、「うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」ことなどがあげられます。逆に小さい項目として、「自分の考えを話したり書いたりして

いる」「まとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」「数学は好き」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」などがあげられます。

今後、国語では、「根拠を明確にして書いたり説明したりする」「漢字や語句について正しく覚え使うようにする」「辞書を活用する」などの活動を意図的に行っていく必要があります。

数学では、「問題の意味を理解し、その背景を読み取る」「根拠を理解し、具体的事象に活用する」などの力を育てていく必要があります。

また、「困難な課題を粘り強く考える機会」や「言語活動を通じた学びの深化」など、日常の授業の一層の充実を図る必要があります。

児童、生徒の状況は

▼育っている「相手を大切に思う心」

質問紙調査の中で、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」などの項目において肯定的な回答が高い数値を示しており、朝の生活リズムが整っているとされます。

また、「友だちの話や意見を最後まで聞く」「友だちとの約束を守っている」「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」などの項目においても肯定的な回答の割合が高く、相手を大切に思

う心が育っていると思われます。さらに、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の項目の割合も高く、達成感、成就感を感じながら生活をしている様子がうかがえます。

一方で、「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」という項目での肯定的な回答の割合は全国のものより低くなっており、自尊心が低かったり、将来への展望が持ちにくかったりするという実態があります。また、「先生は自分のよいところを認めてくれている」という割合も全国のものより低くなっています。

児童、生徒のよさや頑張りをきちんととらえて評価していくことや、将来を描くことができるような声かけや学習、将来を切り拓くことができる確かな学力の定着を図ることが、より一層必要です。

▼家庭学習の定着を図るため、学校・家庭の連携強化を

また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、予習・復習をしている」という項目では、特に中学校での割合が低く、家庭における学習の仕方に課題があるといえます。それぞれの学校で、創意工夫した家庭学習充実のため、取り組みがなされていますが、その成果が表れてくるように、学校・家庭がしっかりと連携して取